

Hokkaido University News

# 北大時報

平成27年

8

No. 737 August 2015

平成27年度北海道大学ユニバーシティ・アドミニストレーター育成講座を実施  
北海道大学 緑のピアガーデン2015を開催





緑のピアガーデン2015



研究者のためのスキルアップセミナー⑤  
「心に響く伝え方」「話す力」を磨く

## 1 大学院生に対する教育研修について

### 全学ニュース

- 2 平成27年度北海道大学ユニバーシティ・アドミニストレーター育成講座を実施
- 2 北海道大学 緑のピアガーデン2015を開催
- 3 北大フロンティア基金
- 5 平成27年度 公益財団法人北海道大学クラーク記念財団助成事業の決定
- 7 北海道大学事務職員英語研修（海外派遣）及び海外インターンシップ報告会を実施
- 8 平成27年度北海道大学公開講座「人と環境が抱える難問～その解決の最前線～」が終了
- 9 平成27年度北海道大学新渡戸賞授与式を挙行
- 9 北海道大学入試説明会を実施
- 10 保健科学研究院 山口博之教授が独立行政法人日本学術振興会「ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞」を受賞
- 10 国際連携研究教育局（GI-CoRE）量子医理工学グローバルステーションが第2回医学物理サマースクールを開催
- 11 国際連携研究教育局（GI-CoRE）が第1回オープンフォーラムを開催
- 12 英国レディング大学教員を招聘し共同講義「食料安全保障と貧困削減」を開催－文部科学省スーパーグローバル大学創成支援事業の一環として－
- 13 国際連携アドバイザーによる職員国際化研修を開催
- 13 構内の伐採木・剪定枝を配布
- 14 化学物質取扱講習会を開催
- 15 保健センターで第2回健康キャンパス北大「予期せぬ危険から身を守ろう」を開催
- 16 研究者のためのスキルアップセミナー⑤「心に響く伝え方『話す力』を磨く」を開催
- 17 「第3回北大発ベンチャー促進懇談会7月例会～ベンチャーキャピタルの役割～」を実施
- 18 北洋銀行ものづくりテクノフェア2015に出展
- 18 「共同研究発掘フェア in 北洋銀行ものづくりテクノフェア」を実施
- 19 人材育成本部上級人材育成ステーションS-cubicで第26回「赤い糸会&緑の会」を開催

### 部局ニュース

- 20 北方生物圏フィールド科学センター、水産科学研究院が株式会社海遊館と学術交流協定を締結
- 20 薬学研究院・薬学部が韓国 ソウル大学校薬学大学と部局間交流協定を締結



北方生物圏フィールド科学センター、水産科学研究院株式会社海遊館と学術交流協定を締結



経済学部特別講演会「格差論の再燃－ピケティの衝撃とその評価－」



北海道大学病院「第52回ふれあいコンサート 七夕の夕べ」



大学文書館新渡戸稲造関係掛け軸2幅を受贈

- 21 薬学部で第18回生涯教育特別講座を開催
- 22 経済学研究科でセミナー「北海道ブランドの企業経営をさく」を開催
- 23 経済学部で特別講演会「格差論の再燃－ピケティの衝撃とその評価－」を開催
- 24 国際広報メディア・観光学院で英国シェフィールド大学との教育・研究交流「TLLPスタディ・ウィーク」を開催
- 25 教育学部でESDキャンパスアジア・プログラム2015に向けた事前学習を開催
- 25 第1回理学系キャリアデザインセミナー2015を開催
- 26 理学部で「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」を開催
- 27 北大農場公開デー「搾乳からアイスクリームまで」
- 28 工学系部局で新規安全主任者講習会、安全衛生教育講習会を実施
- 28 工学系部局で「第1回こころのケアに関する講習会」を開催
- 29 工学系部局で救急救命講習会を実施
- 30 第13回脳科学研究教育センターシンポジウム「脳機能へのアプローチ：解剖・生理・薬理・分子生物から」を開催
- 31 北海道大学病院で夜間想定防火訓練を実施
- 31 北海道大学病院で「第52回ふれあいコンサート 七夕の夕べ」を実施
- 32 附属図書館で「めざせ100万語！英語多読マラソン」スタートアップガイダンスを開催
- 33 法学研究科附属高等法政教育研究センター、附属図書館共同ワークショップ「世界のルールの作り方・使い方」第1回「食の安全と国際経済」を開催
- 34 新渡戸稲造関係掛け軸2幅を大学文書館で受贈

### レクリエーション

- 35 平成27年度学内バレーボール大会の開催
- 36 卓球部OB会が創立50周年記念卓球交流会及び祝賀懇親会を開催

### 諸会議の開催状況 37

### 学内規程 37

### 表敬訪問 38

### 人事 39

- 40 新任理事等紹介
- 40 新任教授紹介

## 大学院生に対する教育研修について

理事・副学長 に っ た た か ひ こ 新田 孝彦



### 高等教育研修センター

本年4月、高等教育推進機構に高等教育研修センターが開設されました。本学ではこれまで、多種多様な教員研修(FD)や職員研修(SD)を実施してきましたが、「スーパーグローバル大学創成支援」タイプAへの採択を機に、教育・研究・業務全般に係わる総合的な国際対応力の高度化を一元的に支援するために設置されたものです。センター長は機構長が兼務し、副センター長の1名は高等教育研究部の教員であり、FD部門と総合教育部の学生の修学支援を主に担当するラーニングサポート部門を統括します。SD部門を統括するもう一人の副センター長は事務局長です。

以下では、本センターが実施する研修事業の中から、大学院生を対象としたものを紹介します。

### 大学教員養成(PFF)

Preparing Future Faculty(PFF)という言葉があります。大学教員を目指す学生に対する準備教育を指しますが、アメリカでは1990年代前半に組織的なプログラムが開発されました。

本学では、高等教育研究部の主催で、2010年から「大学院生のための大学教員養成講座」が開始され、2015年3月までに6回実施されました。講師には、UCバークレー校から、この種の教育を専門とする2名の教員をお招きし、ティーチングの基礎やシラバスの書き方、学習目標の設定の仕方、評価基準の作成方法、大人数授業への対応、職務規程と教育倫理など、教育能力の獲得を目指す講義の他に、論文を書く際に最低限守らなければならないルールなど、研究者としての基礎を学ぶ講義も含まれます。毎回40名ほどの受講者があり、1週間の英語による講義は、予習・復習にも多くの時間が必要で大変なハードワークになります。しかし、修了者からは高い評価を得ており、「教員には学生との関係を円滑にする人間的能力がとても大事なことを学んだ」、「学生に対する忍耐、敬意、愛、信頼をもち、楽譜に沿ってアドリブを交えるパフォーマンスを身につける必要があることを学んだ」、「大人数授業の問題に気づかされ、自分の大学に能動的学習を広めたい」といった声が寄せられています。

### ティーチング・フェロー制度と研修

このように、PFFは高い効果が期待できる講座ですが、受講可能な学生数は限られています。そこで本学では、今年度から、より多くの大学院生にティーチング技能を高める機会を与え、同時に学士課程教育の充実を図ることを目的として、ティーチング・フェロー(TF)制度を導入しました。今年度の採用予定者は180人ほどです。TFとして採用された博士課程学生は、教員と分担しながら学士課程教育を担うことで、将来、大学教員としてのみならず、幅広い分野において指導的な役割を果たすための訓練を行うとともに、よりきめ細やかな学士課程教育の提供にも寄与することになります。TFを採用できる授業は、定型化した実験や実習などに限られますが、教員の指導の下で授業を分担し、教員が行う授業設計や教材開発を補佐するなど、これまでのTA(ティーチング・アシスタント)とは質的に異なった業務を行うことができます。

しかしながら、こうした業務を行うためには、OJT(オン・ザ・ジョブ・トレーニング)だけでは不十分であり、やはり研修が欠かせません。TF業務に当たるためには、TA経験を有することの他に、高等教育研修センターが実施または認定するTF研修を受講することが必須の基礎資格となっています。この研修においても、グループ学習の基本、クラス・マネジメントの方法、シラバスの理解、評価の機能と種類といった「学習指導」と「授業」の基本を学んでもらいますが、その他にも、授業参観の機会付与、TF業務終了後の実施報告書の提出、所属研究科長等への指導教員による成果報告など、手厚い対策をとっています。大学院の教育カリキュラムの中に「教育研修」が必要な時代になったということです。

## ■全学ニュース

# 平成27年度北海道大学ユニバーシティ・アドミニストレーター育成講座を実施

本学事務職員の一層の人材育成を図るため、今年度より、「北海道大学ユニバーシティ・アドミニストレーター育成講座」を実施しました。

本育成講座は、事務職員の企画力を醸成し、総長ガバナンスを推進する体制を強化するとともに、総長室及び運営組織等における教員との協働体制を充実させることを目的としています。

内容は、初回の5月13日（水）の村田直樹理事・事務局長による「これからの大学を支える職員に求められる能力」と題した全体講義を皮切りとして、受講生6名からなる3つのグルー

プ（学務関係、研究関係、国際関係）毎に関係する事務局の部長が指導担当に当たり、本学のケーススタディについて紹介を各々受けた後、グループ内で3名を一つの班に分け、受講生による新たな企画提案プロジェクトへの取組を検討させ、最終日に役員等へのプレゼンテーションを行うものです。

各グループとも講座の中で4～5回の検討機会を設けたほか、講座時間外においても受講生が自主的に情報収集を行うなど、本学が課題とする内容に積極的に取り組み、7月15日（水）の最終日には、各班がそれぞれ企画した

プロジェクトのプレゼンテーションを行いました。

当日は、山口佳三総長をはじめ7名全ての理事並びに事務局や各部局の部課長が多数聴講する中、各プロジェクトとも説明者のみならず全員が協力し、検討してきた成果を発表したほか、理事などからの質問等に対して受講生が回答する形で、活発な意見交換が行われました。

なお、本育成講座は次年度以降も継続して実施していくこととしています。

（総務企画部人事課）



全体講義（村田理事・事務局長）



プレゼンテーション会場の様子



受講生によるプレゼンテーション

## 北海道大学 緑のビアガーデン2015を開催

7月28日（火）～7月31日（金）、今年で10回目となる緑のビアガーデンを4日間開催し、無事終了しました。気温・湿度の高いビール日和が続いたことにより、多くの皆様に緑の中でビアガーデンを楽しんでいただくことが

できました。

今回は、北海道大学生生活協同組合の協力により多種類のフードメニューを準備し、来場された方々に「北大の味」を賞味いただくことができました。

10年目を迎え、北大キャンパスの夏

の風物詩として地域に定着し、毎年楽しみにしてくださるお客様が増え、賑わい溢れるビアガーデンに成長したことを実感できる4日間でした。

（総務企画部広報課）



北大の夕べを楽しむ皆様



爽やかな緑の中で

# 北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動することとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報	17,295件 3,032,201,637円
基金累計額（7月31日現在）	教職員の寄附率 35.0%（1,387件/3,962人）

## 7月のご寄附状況

法人等12社、個人163名の方々から11,587,000円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、総合博物館への銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

### 寄附者ご芳名（法人等）

医療法人耕仁会 札幌太田病院、有限会社札幌庭園工業、スワン アイクリニック、医療法人社団 つつみ整形外科クリニック、寺田医院、医療法人社団 どい内科クリニック、医療法人社団 平成醫塾 苫小牧東病院、合同会社ノーバウンダリーズ動物病理、医療法人社団 はしもとクリニック、一般社団法人 北海道医薬品卸売業協会、株式会社北海道シジシー、山とスキーの会

### 寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	青木 伸	浅野 賢二	安達 昌昭	有賀 正	有田 伸也	飯坂 英雄	石田 数一
石田 眞	井上 昭男	井上 芳郎	入澤 秀次	上田 一郎	上田 峻弘	上村 友也	内山 喬一
枝沢 寛	遠藤 煥	大久保重義	大塚 仁美	尾瀬 農之	乙黒 聡子	小内 透	小原 大和
陰地 陽彦	埴山 雅秀	加藤いづみ	加藤 三郎	金川 眞行	金澤 論	川崎 正晴	河本 充司
菅野 政利	菊地由生子	北山 直史	君島 崇	児玉 耕太	小林 規之	小林 正紀	齊藤 貴士
斉藤 久	斎藤由美子	堺谷 政弘	坂岡 博	佐藤 雅夫	佐藤 裕二	三升畑元基	柴田 博
柴田 祐次	渋谷 正人	島 正佐彦	清水 智之	清水 幸彦	下斗米啓介	周東 智	白石 重政
信野祐一郎	杉元 紘一	鈴木 邦夫	鈴木健太郎	鈴木 晴美	須田 孝徳	瀬名波栄潤	高木 正和
高橋 巧宅	高畠 博光	武隈 洋	竹田 定好	立野 正敏	田所 高志	土家 琢磨	出口 奎示
寺澤 睦	豊田 威信	仲 裕	中川 洋	長瀬 俊彦	鳴尾 精一	新田 啓介	野々村克也
野村 尚生	浜向 賢司	林 清次	原 徹	半田 喬久	備仲 健之	福田 隼	福原 秀雄
福本 駿	藤井 政幸	藤崎 和夫	古川 敦	古田 康	帆足 建三	星野 謙蔵	細川 雅史
前仲 勝実	松田 彰	松丸 尊紀	松本 聡	三浦 良一	三枝 英之	宮内 俊次	村井 亓乙
村島 義男	村田 直樹	目黒 順一	森 清	矢ヶ崎啓一郎	山内 隆嗣	山岸 孝博	山崎 寛志
山下 啓子	山廣 規之	横山 正樹	吉田太久美	吉田 広志	吉仲 滋	吉野 達彦	依田 啓司
依田有二郎	脇坂 明美						

### 銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

#### （法人等）

合同会社ノーバウンダリーズ動物病理、山とスキーの会

#### （個人）

井上 芳郎、菅野 政利、清水 幸彦、新田 啓介、原 徹、村田 直樹、依田有二郎

感謝状の贈呈



株式会社北海道シジシー 様 (平成27年6月4日)



佐々木俊夫 様 (平成27年7月31日)



村田直樹 様 (平成27年7月31日)

ご寄附のお申し込み方法

①給与からの引き落とし

申込書は、本学ホームページの「学内限定情報・システム」からダウンロードし、ご記入の上基金事務室に提出してください。



②郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお渡します。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、事務局財務部経理課収入担当にご持参ください。申込書は、本学ホームページから上記①の要領でダウンロードしてご記入いただくか、各部局事務担当及び事務局財務部経理課収入担当にご用意していますので、ご利用ください。

④クレジットカードでのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ (<http://www.hokudai.ac.jp/fund/form.html>) のクレジットカード寄附申込フォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室 (事務局・学内電話 2017)

高額寄附者との懇談会

北大フロンティア基金では7月30日(木)に、昨年7月以降にご寄附いただいた高額寄附者の方々をご招待し、総長室展示物見学、総長との記念写真撮影及び懇談会を開催しました。当日は、個人6名、企業11社20名の方々が出席し、はじめに菅野政利理事の挨拶があり、次いで総長室で山口佳三総長と記念写真の撮影を行いました。その後、百年記念会館会議室において本基金受給団体・個人の活動について学生から報告がありました。引き続き懇談会を開催し、山口総長から寄附へのお礼が述べられ、寄附者の方々と本学役員との懇談が和やかに行われました。



懇談会で挨拶する山口総長



懇談会の様子



活動報告する学生(団体)



活動報告する学生(個人)

(総務企画部広報課)

# 平成27年度 公益財団法人北海道大学クラーク記念財団 助成事業の決定

公益財団法人北海道大学クラーク記念財団では、本学の教育研究、学生支援等に対し毎年助成事業を行っていますが、本年度については次のとおり決定しました。

なお、助成金額の総額は、今後の予定も含めて総額24,896,800円となっています。

(総務企画部総務課)

## 1. 教育研究活動支援事業

### (1) 博士後期課程在学研究助成

採択数 16件 採択金額 7,650,000円

氏名	所属部局等	学年等	研究課題名	助成額
保田 真希	教育学院	DC 3年	女性の貧困とケア役割－家族内の役割分担と社会資源の活用に焦点をあてて－	350,000円
田中 公教	理学院	DC 2年	白亜紀鳥類の水生適応進化	500,000円
王 册	医学研究科	DC 2年	幼若期ストレスと成人期の精神疾患との関連性に関する考察	500,000円
泉 健太郎	医学研究科	DC 4年	ヒト17型コラーゲン全長リコンビナントタンパクを用いた新規ELISAの開発	500,000円
渡邊 美佳	医学研究科	DC 4年	17型コラーゲン (COL17) の表皮恒常性維持における役割の解明	500,000円
武藤 麻未	歯学研究科	DC 4年	鼻咽頭粘膜上皮からのMicrofold細胞の平面培養系の構築	500,000円
大谷 恭平	工学院	DC 1年	飲料水環境におけるアルミニウム合金の腐食抑制法の開発	500,000円
今 美沙紀	工学院	DC 2年	相変化を伴う気液二相流のマルチスケール解析手法開発	500,000円
野村 温	工学院	DC 2年	ドーブによる電荷密度波 (CDW) 誘起	500,000円
周 華	農学院	DC 2年	低温ストレスによってゲノムを移動するキンギョソウの動く遺伝子の転移機構	500,000円
王 磊	農学院	DC 2年	味覚受容体解析を指向した新規光反応性サッカリン誘導体の合成	500,000円
竹島 亮馬	農学院	DC 2年	Apple latent spherical virus を用いたダイズ開花遺伝子の研究	500,000円
江口 遼太	獣医学研究科	DC 1年	虚血病態下におけるアストロサイトのプリン作動性機構	500,000円
末政 亮大	生命科学院	DC 2年	配座制御に基づくサブタイプ選択的なGABAトランスポーター阻害剤の創製研究	300,000円
木村 彩乃	生命科学院	DC 3年	p3-AIcβの機能解析、及び新規アルツハイマー病治療薬としての応用研究	500,000円
山田 泰平	総合化学院	DC 2年	非極性溶媒中での静電相互作用を用いた疎水性ペプチドの可溶化と高次構造体形成	500,000円

### (2) 新渡戸基金研究助成

採択数 2件 採択金額 996,800円

氏名	所属部局等	職名	研究課題名	助成額
谷本 晃久	附属図書館	准教授	電子展示アーカイブWebサイトの立上げにより札幌農学校に関する研究成果を学内外に供する	496,800円
井上 高聡	大学文書館	准教授	札幌農学校時代の新渡戸稲造の諸活動に関する歴史的研究	500,000円

## 2. 教育研究国際交流支援事業

## (1) 学部学生等海外派遣助成（留学）

採択数 4件 採択金額 1,000,000円

氏名	所属部局等	学年等	留学先・留学期間	助成額
塩田 卓也	経済学部	3年	アメリカ合衆国（ハワイ大学マノア校） <H27.8.13～H28.5.31>	250,000円
濤岡 優	教育学院	MC1年	フィンランド（オウル大学） <H27.9.1～H28.6.30>	250,000円
佐原 愛士	工学院	MC1年	ドイツ（ミュンヘン工科大学） <H27.10.1～H28.2.10>	250,000円
孫 溯青	理学部	4年	フランス（グルノーブル大学連合） <H27.9.1～H28.1.31>	250,000円

## (2) 外国人留学生奨学金助成（給付・単年度限りとする）

採択数 3件 採択金額 1,800,000円

氏名	所属部局等	学年等	国籍	助成額
チェン 陳 チョン 冲	医学研究科	DC4年	中国	月額 50,000円(×12月)
イン 殷 ショウ 翔	情報科学研究科	DC2年	中国	月額 50,000円(×12月)
キム 金 ヨンミ 榮美	文学研究科	DC3年	韓国	月額 50,000円(×12月)

## 3. 奨学育英事業

## 学部学生奨学金助成（貸与）

採択数 継続者12件 &lt;月額50,000円×12月&gt; 採択金額 7,200,000円

※平成25年度から新規の募集を行わないこととなった。

## 【今後の予定】

## 4. その他の事業

## 学業優秀者表彰助成（クラーク賞）

採択数 50件 採択金額 1,000,000円

## 5. 教育研究国際交流支援事業【学部学生等海外派遣助成（留学）】の追加募集

採択数 21件 採択金額 5,250,000円

## 北海道大学事務職員英語研修(海外派遣)及び海外インターンシップ報告会を実施

「平成26年度北海道大学事務職員英語研修(海外派遣)」の派遣者2名及び「平成26年度北海道大学事務職員海外インターンシップ」の派遣者2名による報告会を7月16日(木)に百年記念会館大会議室において実施しました。

本報告会は、全て英語により行われ、平成27年度北海道大学事務職員英語研修(上級)の最終日に行われるプレゼンテーションの実習と合同で、ブリティッシュ・カウンシルの講師の司会のもと開催されました。

はじめに、英語研修(海外派遣)によりカナダ・アルバータ大学へ派遣さ

れた学務部キャリアセンターの福永理恵係員と、ニュージーランド・オークランド大学へ派遣された国際本部国際連携課の寺澤 惇係員が報告し、引き続き、海外インターンシップによりアメリカ・マサチューセッツ大学におけるインターンシップ及びワシントンD.C.周辺大学への調査等を行った同本部国際教務課の高木敦子係員と、オーストラリア・シドニー大学及びサウス・ウエールズ大学におけるインターンシップ及び語学研修を行った同本部国際連携課の石原壮太郎主任が報告を行い、各々が派遣期間中の活動状況を

中心に、大学の様子、周辺環境、生活習慣の違いなどについて、現地で実践してきた英語力を駆使して、写真や資料を交えながら発表しました。

報告会には英語研修(上級)受講者のほか、今年度の同制度による海外派遣予定者や、国際交流等に関心のある職員が多数聴講し、流暢な英語に感心しながら興味深く聞き入っている様子で、活発な質疑が繰り広げられました。

(総務企画部人事課)



福永係員



寺澤係員



高木係員



石原主任

# 平成27年度北海道大学公開講座 「人と環境が抱える難問～その解決の最前線～」が終了

7月2日（木）から23日（木）まで、本年度の公開講座（全学企画）を開催しました。

昭和52年の開始から数えて40回目となる今回の講座では、「人と環境が抱える難問～その解決の最前線～」をテーマに、暮らしに密着した話題から国境を越えてグローバルに広がる問題まで、現代社会の多岐にわたる「難問」を研究する本学の教員8名が講義しました。平和と安全保障の問題や、放射

性廃棄物の処分、人獣共通感染症をはじめとして、時宜を得たトピックが並んだ講座内容は受講者から高い評価をいただきました。

また今回は、より幅広い年代層の受講を促すための新たな取り組みとして、従来、すべて平日夕方に行ってきた講義の一部を休日（7月20日（月・祝））の昼間に実施しました。この試みも多く受講者からご好評をいただき、特定回のみ受講者は、例年延べ

15名ほどのところ、本年度は延べ30名以上となりました。

各回の講義終了後には受講者から熱心な質問が寄せられ、生涯学習に対する意欲の高さが感じられました。

最終講義の終了後には閉講式が行われ、全8回中6回以上出席した83名の受講者に修了証書が授与されました。

（学務部学務企画課）

## 各回の講義題目と講師

- 第1回「がんに対する動体追跡陽子線治療」（医学研究科 教授 白土博樹）
- 第2回「相互扶助の社会環境－先人有島武郎の道－」（文学研究科 教授 中村三春）
- 第3回「日本における作物栽培の現状と将来展望」（農学研究院 特任教授 岩間和人）
- 第4回「どうする?!核のごみと鉱山廃水」（工学研究院 教授 佐藤 努）
- 第5回「インターネットは福音か、災いの源か」（法学研究科 教授 町村泰貴）
- 第6回「平和は可能か－日本の安全保障を考える－」（公共政策学連携研究部 教授 遠藤 乾）
- 第7回「エボラウイルス研究の最前線」（人獣共通感染症リサーチセンター 教授 高田礼人）
- 第8回「若者にみる難問・若者が挑む難問－地域青年活動の歴史と現在－」  
（教育学研究院 准教授 辻 智子）



講義に聞き入る受講者



修了証書の授与

## 平成27年度北海道大学新渡戸賞授与式を挙行

7月16日（木）、情報教育館スタジオ型多目的中講義室において、平成27年度北海道大学新渡戸賞授与式を行いました。

新渡戸賞は優秀な学部生の育成を目的として平成17年度に設けられた制度で、1年次における学業成績が特に優秀で、かつ人格に優れ、他の学生の模範となる2年次生に対して、奨励金が給付されます。今年度は90名が受賞しました。

授与式は新田孝彦理事・副学長、出口寿久学務部長列席のもと、新田理事・副学長から各学部の代表者へ賞状

が授与されました。

続いて新田理事・副学長から挨拶があり、新渡戸稲造博士の業績についてのお話と共に「今回の受賞を契機に、皆さんには自らの教養を積極的に深め、これからも大学生活をより有意義なものとし、世界に羽ばたく人間へと成長していただきたい」と激励の言葉を贈りました。

受賞者達は偉大な先輩の名を冠した賞の受賞者として、今後も勉学に一層励むべく、自覚を新たにしていました。

（学務部学生支援課）



賞状の授与



授与式の様子

## 北海道大学入試説明会を実施

7月24日（金）午前10時から、学術交流会館において、高等学校等の進路指導担当教諭を主な対象とした入試説明会を開催し、高等学校等81団体から128名の参加がありました。

説明会では新田孝彦理事・副学長から挨拶と本学の現状についての説明があった後、喜多村昇アドミッションセンター副センター長が平成27年度入試

結果の概要について説明を行いました。

その後、質疑応答が行われ、さらに説明会の一環としてアドミッションセンター教職員による個別相談会を実施し、総合入試入学者の学部移行状況等に関する質問が寄せられました。

（アドミッションセンター）



新田理事・副学長の挨拶

## 保健科学研究所 山口博之教授が独立行政法人日本学術振興会「ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞」を受賞

7月1日(水)、保健科学研究所の山口博之教授が、独立行政法人日本学術振興会より「平成27年度ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞」を授与されました。

「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」とは、科学研究費助成事業による研究成果を、小・中学生や高校生に体験・実験・講演を通じて分かりやすく紹介する独立行政法人日本学術振興会の事業です。「ひらめき☆ときめきサイエン

ス推進賞」は、継続的にプログラムを実施するなどした研究者に授与されるもので、今年度はこれまでに実施代表者としてプログラムを5回以上実施したことがある研究者が対象となりました。

7月14日(火)に川端理事室で行われた伝達式には、伊達広行保健科学研究所長も出席し、川端和重理事・副学長より、山口教授へ表彰状及び記念品が手渡されました。

(研究推進部研究振興企画課)



左から伊達保健科学研究所長、山口教授、川端理事・副学長

## 国際連携研究教育局 (GI-CoRE) 量子医理工学グローバルステーションが第2回医学物理サマースクールを開催



関係者集合写真

GI-CoRE量子医理工学グローバルステーションは、スタンフォード大学放射線腫瘍学科と合同で、6月12日(金)から18日(木)までの1週間にわたり、陽子線治療センターにて「第2回GI-CoRE医学物理サマースクール」を開催しました。

サマースクールは、スタンフォード大学、カリフォルニア大学サンフランシスコ校 (UCSF)、国立研究開発法人放射線医学総合研究所、株式会社日立製作所、及び本学から多彩な講師陣を迎えての開催となりました。また、

中国(深圳先端技術研究院、上海交通大学、復旦大学、香港大学)、韓国(韓国カトリック大学)、ニュージーランド(カンタベリー大学)、米国(スタンフォード大学)といった世界各国からの参加者に加え、大阪大学、東北大学、九州大学、熊本大学、札幌医科大学、及び本学より総勢15名の学生が参加しました。

セミナーは英語による講義のみならず、放射線や陽子線装置を使った実習(臨床研修)を含む包括的なコース内容となっており、受講者からは講習内



講義風景



イブニングセッションの様子

容の充実が大変高く評価されるとともに、来年度以降の開催もぜひ期待したいという内容のフィードバックがありました。最終日には、量子医理工学グローバルステーション兼任の工学研究所の梅垣菊男教授から修了証が各受講者に手交され、盛会裡に終了しました。

(国際連携研究教育局)

## 国際連携研究教育局（GI-CoRE）が第1回オープンフォーラムを開催

7月3日（金）に、工学部オープンホールを会場として、第1回GI-CoREオープンフォーラムを開催しました。

平日の昼間にも関わらず、ご来賓の文部科学省高等教育局国立大学法人支援課課長補佐の佐藤昭博氏、同支援課支援第一係主任の林田智史氏、文部科学省研究振興局研究振興戦略官の阿蘇隆之氏、同戦略官付統括係専門職の磯野あずさ氏を含め、学内外から160名の参加がありました。フォーラムではGI-CoREとは何か、また実際にどういいう研究・教育活動が行われているかを紹介しました。

まず、上田一郎理事・副学長から開会挨拶、佐藤課長補佐から来賓のご挨拶があった後、改めて上田理事・副学長からGI-CoREの概要について説明がありました。続いて、既に活動が始まっている人獣共通感染症と量子医理工学の2つのGlobal Station（GS）について、それぞれ喜田 宏特任教授、白土博樹教授から説明がありました。また、量子医理工学GSで研究活動に従事しているYi Cui博士研究員が、米国スタンフォード大学との共同研究の様子を紹介しました。

聴衆からは、研究ユニットの招致か

ら大学間コンソーシアムの形成にまで進んでいる理由は、といった大局を見据えた質問から、動きが激しい部位でも金マーカー（目印）をつけて腫瘍の追跡照射ができるのか、といった研究面の質問もなされました。

最後に、安田和則理事・副学長からGI-CoRE設置による直接的な効果が既に現れ始めていることと、今後の一層の好影響を期待する旨が述べられ、2時間弱のフォーラムが終了しました。

（国際連携研究教育局）



会場の様子



喜田特任教授



白土教授



質疑応答の様子

# 英国レディング大学教員を招聘し共同講義「食料安全保障と貧困削減」を開催 —文部科学省スーパーグローバル大学創成支援事業の一環として—

7月7日（火）、英国のレディング大学と「食料安全保障と貧困削減（Food Security and Poverty Reduction）」に関する共同講義を開講し、本学の学生25名が受講したほか、インドネシア及びタイの国際交流協定校5大学の学生32名がインターネットを通じて受講しました。

この共同講義は、文部科学省スーパーグローバル大学創成支援事業「Hokkaidoユニバーサルキャンパス・イニシアチブ」（平成26年度採択）により実施している「トップランナーとの協働教育機会拡大支援事業」の一環として行われた活動で、本学5部局（地球環境科学研究院，工学研究院，水産科学研究院，情報科学研究科，農学研究院）の教員による学内横断型グループと世界の第一線で活躍する優

れた研究者が、協働で提供するものです。

当日は、まずレディング大学農業政策開発大学院のHenny Osbahr准教授が、食料安全保障と貧困削減の課題について、アフリカや南アジアの家族経営農場を例に挙げ、学際的な視点から講義を行いました。続いて、本学農学研究院の近藤 巧教授が、ネパールにおける農業生産成長と農家食料安全保障について、経済学的な観点から講義しました。その後、学生はグループに分かれ、「食料システムにおける課題と機会」について議論し、その結果を発表しました。学生は自身の専門と異なる分野のテーマにも関わらず、活発に意見を交換しました。

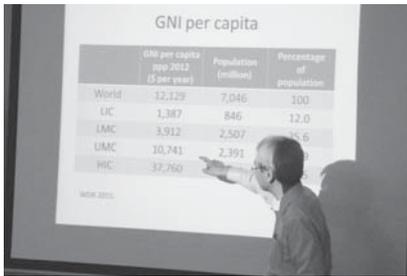
なお、Osbahr准教授は、来年度開講予定の大学院共通授業科目「PARE基礎論IV－人口・活動・資源・環境

の連環」で講義をしていただく予定で、同科目の事前学習用eラーニング教材の収録を行ったほか、本学とレディング大学の大学間交流協定締結に向けて、本学教員及び職員と協議を行いました。今後、両大学の関係が一層深まっていくことが期待されます。

（国際本部国際連携課）



共同講義の様子（Osbahr准教授）



共同講義の様子（近藤教授）



ディスカッションの様子



eラーニング教材の収録

## 国際連携アドバイザーによる職員国際化研修を開催

昨年度、文部科学省スーパーグローバル大学創成支援事業（タイプA）に採択された「Hokkaidoユニバーサルキャンパス・イニシアチブ（HUCI）」構想の下、本学では研究・教育活動の国際的な展開を加速しています。こうした研究・教育活動の国際化推進のための支援体制強化の一環として、7月10日（金）に本学次世代大学力強化推進会議委員及び国際連携アドバイザーであるイリス・ヴィーツォレックIRIS科学技術経営研究所代表による研修を開催しました。本研修は、HUCI統括

室・URAステーション協働で企画し、大学力強化推進本部、文学研究科など研究部局で研究推進を担当するURA等職員、事務局、国際本部の事務職員14名が参加しました。

研修では、「ドイツの先進的な研究マネジメント事例から学ぶ」をテーマに、社会から求められる大学の役割の変遷、大学システムの改革とサイエンスマネージャの導入等、日本の高等教育システムと共通点も多い非英語圏のドイツの事例について講義、グループワークを実施しました。

今回の研修を通じ、ドイツの研究マネジメント事例に関する最新の情報を習得するとともに、大学職員の実務上必要とされる様々な英語を習得する絶好の機会となりました。また研修をきっかけとし、より充実した研究推進環境構築に向け、参加した研究推進担当職員間のネットワーク形成が期待されます。

（国際本部）



ヴィーツォレック氏



研修の様子

## 構内の伐採木・剪定枝を配布

二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）排出削減を目的として、6月27日（土）・28日（日）、札幌キャンパス構内で発生した伐採木・剪定枝およそ46m<sup>3</sup>（熱量換算で灯油約9,000L、24.7ton-CO<sub>2</sub>相当）を、薪として市民の皆様へ配布しました。

1ヶ月ほどの募集期間に112名から申し込みがあり、抽選で80名が選ばれ、うち66名が来場しました。配布イベントは今年で4年目ですが、5月初旬より市内の薪ストーブをお使いの方々から「今年の配布時期はいつか」といっ

た問い合わせが相次ぎ、多くの人が待ち望む毎年恒例のイベントとして定着してきています。来場者自身が自家用車に好みの薪を積み込み、事故もなく、無事終了しました。

本学のサステナブルキャンパス構築に対する取り組みには様々なものがありますが、この配布イベントは、節電、省エネと並んで、カーボンニュートラル\*な木質バイオマスエネルギーを活用し、直接的にCO<sub>2</sub>を削減できる貴重な取り組みとなっています。

\*カーボンニュートラル

木質バイオマスを燃料として使用しても、植物の生長過程で吸収されたCO<sub>2</sub>が大気中に放出されるため、大気中のCO<sub>2</sub>の増減はない。これをカーボンニュートラルと言う。このため、化石燃料の代わりに木質バイオマスを使用することは、CO<sub>2</sub>の排出削減につながる。

（サステナブルキャンパス推進本部、施設部環境配慮促進課）



配布開始時の様子



配布終了時の様子

## 化学物質取扱講習会を開催

本学では国立大学法人北海道大学化学物質等管理規程に基づき、化学物質を取り扱う全ての者に対して「化学物質取扱講習会」を実施しています。今年度は、札幌キャンパスと函館キャンパスにて計20回開催し、合計1,800人近くの参加者が集まりました。

講習会では、化学物質の安全管理の本質であるハザードとリスクの考え方をはじめ、化学物質の危険・有害性と法規制の関係、化学物質管理に係す

る代表的な法例の考え方と最近の動向から、実験室等でのSDS（安全データシート）の活用方法、リスクから自らの身を守るために必要な基本的知識、さらには有害廃液を収集・処理する際の具体的な留意事項まで、実際に国内で起こった事故事例や映像資料等も交えながら化学物質管理に関する幅広い内容に触れています。受講終了後のアンケートでも「わかり易かった」「勉強になった」といった好意的な意見が

大半を占めており、現場での化学物質等の取り扱いに役立つものと確信しています。

なお、本講習会は毎年度開催しています。初めての方だけでなく、既に受講経験のある方も年に1度の復習の機会として毎年積極的に受講するようお願いいたします。

(総務企画部総務課安全衛生室)

### 講習会の内容

1. 実験室で化学物質を取り扱う際の注意点
2. 廃液の取り扱いについて

1	6/23 (火) 10:30~12:00	歯学部 歯学部講堂
2	6/25 (木) 10:30~12:00	農学部 4F 大講堂
3	6/25 (木) 13:00~14:30	薬学部 臨床講義室
4	6/25 (木) 14:45~16:15	薬学部 臨床講義室
5	6/26 (金) 10:30~12:00	地球環境科学研究所 D棟201室
6	6/26 (金) 14:45~16:15	理学部 5号館 大講義室
7	6/29 (月) 10:30~12:00	工学部 オープンホール
8	6/30 (火) 10:30~12:00	北キャンパス・創成 創成棟5F 大会議室
9	6/30 (火) 13:00~14:30	農学部 4F 大講堂
10	7/1 (水) 10:30~12:00	医学部 臨床講義棟2F 大講堂
11	7/1 (水) 14:45~16:15	情報科学研究科 A21講義室
12	7/2 (木) 14:45~16:15	工学部 オープンホール
13	7/3 (金) 10:30~12:00	北キャンパス・創成 創成棟5F 大会議室
14	7/6 (月) 14:45~16:15	低温科学研究所 講堂
15	7/7 (火) 10:30~12:00	工学部 オープンホール
16	7/7 (火) 13:00~14:30	保健科学院 D棟1F 多目的室
17	7/7 (火) 16:30~18:00	獣医学部 講堂
18	7/10 (金) 14:45~16:15	理学部 5号館 大講義室
19	7/14 (火) 14:45~16:15	函館キャンパス 講義棟大講義室
20	7/15 (水) 10:30~12:00	函館キャンパス 講義棟大講義室



講演する川上貴教准教授 (安全衛生本部)



会場の様子

## 保健センターで第2回健康キャンパス北大「予期せぬ危険から身を守ろう」を開催

保健センターでは、6月9日（火）午後6時30分から7時30分まで、同センター1階ラウンジにおいて、第2回健康キャンパス北大「予期せぬ危険から身を守ろう」を開催し、26人の教職員・学生の参加がありました。

最初に、札幌方面北警察署の方から「被害にあわないためのポイント」と題して講演がありました。不審者発生状況などの情報を普段から収集しておく必要性の話から始まり、夜間の一人歩きを避けること、人通りの多く明る

い道を歩くこと、イヤホンで音楽を聴いたり、スマートフォンを操作しながらの歩行は避けること、防犯グッズを携帯する、玄関に入って施錠するまで警戒を怠らないなど、被害防止策についての重要なポイントのお話がありました。

次に、北海道警察本部の方も加わり、「身を守る“護身術”を学ぼう!」と題して実技が行われ、不審者から身を守る方法など、実践的な安全対策を学びました。参加した教職員・学生は

熱心に受講し、実技の後、終了予定時間がかなり超過してしまうほど質疑応答も活発に行われました。

事後のアンケートでは、「今回の企画はとても良かった」「役に立った」などの声が多く寄せられ、ほぼ全員の参加者から、定期的開催してほしいという希望がありました。本センターでは、今後も継続して本講習を企画・実施していく予定です。

（保健センター）



熱心に話を聞く参加者



実技の様子



活発に行われた質疑応答

## 研究者のためのスキルアップセミナー⑤ 「心に響く伝え方 『話す力』を磨く」を開催

7月30日（木）、フード&メディカルイノベーション国際拠点2階オープンカフェにおいて研究者のためのスキルアップセミナー⑤「心に響く伝え方『話す力』を磨く」を開催しました。

当セミナーは、研究大学強化促進事業の一環として、研究者が成果等を社会に発信する際に必要となるスキルの向上のために、平成25年度より実施している「研究者のためのスキルアップセミナー」の第5弾として実施しました。

今回のセミナーでは、はじめに研究戦略室総長補佐の網塚 浩教授より「これまでのスキルアップセミナー」と題して、過去4回のセミナーについての紹介があり、その後「心に響く伝え方『話す力』を磨く」をテーマ

に、キャスターで気象予報士・防災士の菅井貴子氏にご講演いただきました。

教職員を中心とする76名の参加者は、菅井氏の実体験に基づく話に真剣に耳を傾け、また、時折笑顔もこぼれるなど、終始なごやかな雰囲気で行われました。講演の後半では、参加者から事前に集めた質問に菅井氏が答え、また、活発な意見交換がなされるなど、会場は熱気に包まれていました。

アンケートの結果、今回の参加者はスキルアップセミナーに参加するのが「はじめて」の方が7割でしたが、ほとんどが内容に「満足」「まあ満足」という回答であったほか、「大変勉強になった」「過去に受講できなかったテーマをもう一度開催してほしい」な

どの意見も数多く寄せられ、当セミナーへの関心の高さがうかがわれました。

大学力強化推進本部、創成研究機構では、これらの意見をもとに、今後の継続的なセミナー開催について検討していきたいと考えています。

（創成研究機構）



網塚教授による講演



会場の様子



菅井氏による講演



質疑応答の様子

## 「第3回北大発ベンチャー促進懇談会7月例会～ベンチャーキャピタルの役割～」を実施

7月15日（水）、フード&メディカルイノベーション国際拠点多目的ホールにて「第3回北大発ベンチャー促進懇談会7月例会～ベンチャーキャピタルの役割～」を実施しました。

この懇談会の目的は、本学の教員、学生などが保有する起業計画を発掘し、支援の機会を拡大することであり、主催が本学産学・地域協働推進機構、共催として独立行政法人中小企業基盤整備機構北海道本部、後援が経済産業省北海道経済産業局、北海道、札幌市、北大リサーチ&ビジネスパーク推進協議会、一般財団法人さっぽろ産業振興財団、公益財団法人北海道中小企業総合支援センター、株式会社北洋

銀行、株式会社東京大学エッジキャピタル、北海道ベンチャーキャピタル株式会社となっています。

まず、産学・地域協働推進機構の牧内勝哉副機構長の趣旨説明と挨拶から始まり、株式会社東京大学エッジキャピタル（UTECH）のプリンシパル 坂本教晃氏に「ベンチャーキャピタルの役割」について講演いただきました。

UTECHは、大学等研究機関の「知」の社会還元に向け、優れた知的財産・人材を活用するベンチャー企業に対して投資を行う、東京大学が「技術移転関連事業者」として承認するベンチャーキャピタルです。

UTECHと本学、並びに参加した皆様

との距離がずいぶんと近くなったセミナーとなりました。

本懇談会の次回の予定は9月10日（木）です。既に起業プランがある方はもちろん、漠然とした起業への思いを抱いている方も、ぜひご参加ください。

◆問い合わせ先

産学・地域協働推進機構 産学推進本部  
創業デスク担当 須田

E-mail : startup@mcip.hokudai.ac.jp

内線 : 9559

（産学・地域協働推進機構）



開会の挨拶 牧内副機構長



UTECH 坂本氏



講演会の様子

## 北洋銀行ものづくりテクノフェア2015に出展

7月23日(木)、アクセスサッポロ(札幌市白石区)にて「北洋銀行ものづくりテクノフェア2015」が開催され、本学も出展しました。

本フェアは優れた技術や製品を有する中小企業、大学、支援機関等が販路拡大や企業間連携の促進、情報交換や技術交流を通じて、北海道のものづくり産業の振興を図ることを目的としています。今回は、出展者が209社、来場者が約4,400名となり、過去最多の規

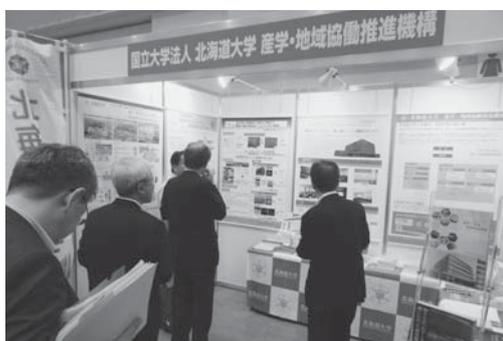
模となりました。

本学のブースでは、「フード&メディカルイノベーション国際拠点」、工学研究院の中村 孝教授の研究シーズ「疲労特性・耐環境性の高度化を実現するナノ微細化表面改質技術“Cyclic Press法”の開発」、人材育成本部の「博士・ポスドクキャリア形成支援」、創成研究機構共用機器管理センターの「オープンファシリティー」、先端NMRファシリティー共用促進プログ

ラム」、産学・地域協働推進機構の「ワンストップ窓口」などの紹介を行い、多くの方に訪問していただきました。共同研究までの手順に関してや本学研究者の研究シーズについて具体的な相談もありました。

中小企業や中小企業支援機関等の皆様との交流がますます深まった一日となりました。

(産学・地域協働推進機構)



本学のブースの様子



展示内容の一部

## 「共同研究発掘フェア in 北洋銀行ものづくりテクノフェア」を実施

7月23日(木)、アクセスサッポロ(札幌市白石区)にて「共同研究発掘フェア in 北洋銀行ものづくりテクノフェア～産学官金連携で『まち・ひと・しごと創生』の実現を～」(北洋銀行ものづくりテクノフェア2015と同時に開催)を実施しました。

本イベントは、道内の研究機関(大学・高等専門学校・公設試験研究機関)の研究者が、主に道内の企業向けに、研究内容や研究室(設備や特徴など)を分かりやすく紹介し、共同研究のきっかけをつくるのが目的です。

今回の参画機関は、帯広畜産大学、北見工業大学、札幌市立大学、はこだて未来大学、北海道科学大学、北海道大学、室蘭工業大学、旭川工業高等専門学校、釧路工業高等専門学校、公益財団法人函館地域産業振興財団、地方独立行政法人北海道立総合研究機構、

株式会社北洋銀行、北大リサーチ&ビジネスパーク推進協議会が主催となり、14件の「情報・通信分野」の研究室の紹介を行いました。(パンフレットでは、24研究室の紹介。)

本学からは、情報科学研究科より、①メディアネットワーク専攻インテリジェント情報通信研究室 西村寿彦助教、②メディアネットワーク専攻メディアダイナミクス研究室 高橋 翔特任助教、③情報理工学専攻調和系工

学研究室 川村秀憲准教授、④メディアネットワーク専攻情報メディア環境学研究室 土橋宜典准教授、⑤情報理工学専攻知能ソフトウェア研究室 佐藤晴彦助教の5つの研究室から発表がありました。

ここから、将来の地域産業の核となる共同研究が創れば、と期待しています。

(産学・地域協働推進機構)



産学・地域協働推進機構 牧内勝哉副機構長による開会挨拶



会場の様子

## 人材育成本部上級人材育成ステーションS-cubicで 第26回「赤い糸会&緑の会」を開催

人材育成本部のS-cubicでは、6月19日（金）に学术交流会館にて第26回「赤い糸会&緑の会」を開催しました。

本会は、企業と若手研究者（DC、PD）との直接情報交換会であり、企業には若手研究者の高い専門性や総合力を理解いただき、若手研究者には企業の研究開発活動や企業における博士の活躍状況等を知ってもらうことで、相互理解を深め、視野の複線化、活躍フィールドの拡大を図ることを目的としています。

今回で「赤い糸会&緑の会」は通算26回目の開催となり、若手研究者の参加も回を重ねるにつれ増加し、総合化学院、理学院、生命科学院、農学院、工学院、環境科学院、水産科学院、情報科学研究科から33名（DC）、また、昨年度末より採択された科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業で、東北大学から2名、名古屋大学から1名の若手研究者が参加しました。企業からも、化学、鉄鋼、食品、繊維、機械、電気、製薬、精密機器等の

各種業界から16社（35名）にご参加いただきました。

本会では、冒頭の人材育成本部長の望月恒子教授による開会挨拶、赤い糸会担当の樋口直樹特任教授による趣旨説明の後、参加企業の皆様から業界動向や博士の活躍状況等の紹介が行われ、その後、若手研究者の自己紹介ポスター発表、企業ブースを訪問しての個別情報交換等が活発に行われました。

さらに、「赤い糸会&緑の会」を通じて企業に就職した若手研究者の先輩方3名が今回の情報交換会に参加し、後輩達に対して熱い思いを語ってくれました。

開催後の企業側のコメントからは、「年々レベルが上昇している」「運営が洗練されている」との声をいただくことができました。また、参加した若手研究者からは、「多くの企業と接点を持つことができ、大変有意義であった」「インターンシップへ繋がりそうだ」といった嬉しい声が聞かれました。

次回12月8日（火）の第27回「赤い

糸会&緑の会」にも、既に定足の15社のエントリーが確定しており、来年2月18日（木）には東京での開催を予定しています。

人材育成本部では以上の活動に加えて、企業事業所視察、Advanced COSA、J-window、キャリアパス多様化支援セミナー、キャリアマネジメントセミナー、企業での長期インターンシップ等を通して、これまで以上に若手研究者の実践力を高めることへ注力していきます。また、コンソーシアム結成により、東北大学や名古屋大学が運営しているより多くの洗練されたプログラムを博士に提供できるようになりましたので、今後ともご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

なお、興味のある方は人材育成本部のホームページをぜひご覧ください。

◆<http://www2.synfoster.hokudai.ac.jp>

（人材育成本部）



望月人材育成本部長の開会挨拶



樋口人材育成本部特任教授の趣旨説明



企業からの業界動向説明



説明に聞き入る若手研究者



若手研究者のポスター発表



企業との個別情報交換

## ■ 部局ニュース

# 北方生物圏フィールド科学センター，水産科学研究院が株式会社海遊館と学術交流協定を締結



左から，松尾代表取締役社長，安井研究院長，山羽副センター長

7月10日（金）に，北方生物圏フィールド科学センター，水産科学研究院，株式会社海遊館の三者で学術交流協定を締結しました。

当日は，大阪市の海遊館で調印式が執り行われ，山羽悦郎副センター長，

安井 肇水産科学研究院長，松尾義春代表取締役社長らが出席しました。

水圏動物（魚類をはじめとする野生動物）の生態・行動の理解とその保全のための研究及びその成果である科学技術の発展が，飼育技術の向上や教育

的展示の発展に貢献し，三者の学術的利益に寄与することを共通に認識し，より一層発展・促進することを目的としています。

（北方生物圏フィールド科学センター）

# 薬学研究院・薬学部が韓国 ソウル大学校薬学大学と部局間交流協定を締結

薬学研究院・薬学部では7月17日（金）にソウル大学校薬学大学との部局間交流協定を締結しました。調印式には，ソウル大学校薬学大学から Bong-Jin Lee 学部長，Yu-Kyoung Oh 副学部長，Sang Kook Lee 副学部長をはじめ6名が，本研究院からは南 雅文研究院長をはじめ3名の教員が出席しました。

本学とソウル大学校は平成9年に大学間交流協定を締結し，これを機に第1回合同シンポジウムを札幌で開催して以来，毎年交互に開催校となって合同シンポジウムを開催していますが，薬学研究院・薬学部でも平成22年より「ナノバイオを基盤とした核酸医薬」の研究分野を中心にこの合同シンポジウムに参加し，ソウル大学校薬学大学

との交流を行っています。部局間交流協定は，より広範囲な研究分野での交流やサマー・インスティテュートなどを通じた学生交流を更に活発に行うために締結したもので，今後，両部局間における様々な分野での交流が期待されます。

（薬学研究院・薬学部）



調印後の記念撮影



南研究院長（左）とLee学部長（右）

## 薬学部で第18回生涯教育特別講座を開催



会場の様子

薬学部では、7月10日（金）に薬学部臨床薬学講義室において生涯教育特別講座・春季講演会を開催しました。同特別講座は、医療関係及び関連領域の仕事に従事される方を対象に、医療における諸問題について最新の情報を提供することを目的としており、薬学部の同窓生や薬学部学生・教職員、地域の薬剤師など70名の参加がありました。

今回は、北海道情報大学医療情報学部の西平 順教授を講師に迎え、「科学的エビデンスに基づく食品の機能性評価」と題して講演いただきました。

西平教授は食品が身体に及ぼす効果を評価する「食の臨床試験」を実施するため、地域社会に密着した連携システムを作り上げました。本講演では「江別モデル」と言われるその研究内容を含めた、食品の機能性評価につい

て詳しい解説がありました。

講演後は多くの質問があり、活発な議論が行われ、参加者からは「食の臨床試験が思っていたより進んでいると知りました」「北海道の食に貢献する研究を通して価値あるものになっているのは素晴らしいと思いました」などの感想が多数寄せられました。

（薬学研究院・薬学部）

## 経済学研究科でセミナー「北海道ブランドの企業経営をきく」を開催



記念撮影



講演を熱心に聴く参加者

経済学研究科では、小樽の田中酒造株式会社代表取締役の田中一良氏によるセミナー「北海道ブランドの企業経営をきく—小樽田中酒造社長を招いて」を、7月9日（木）午後2時30分～4時30分、人文・社会科学総合教育研究棟W103教室において開催しました。同セミナーには、台湾の朝陽科技大学から日本の経営を学ぶために来札していた30名ほどの大学院生も参加し、本研究科の王 磊助教が通訳を担当しました。

講演者である田中氏は、大学卒業後、銀行で国際金融業務を担当されていましたが、お父様の急死に伴い、田中酒造の経営を引き継ぎました。1899年に創業した同社は、今年で116年目を迎え、田中氏は4代目です。講演では、日本酒産業の問題点と田中酒造の対応についてお話いただきました。

日本酒の出荷量は、1973年をピークに激減し、2013年にはその3分の1に

まで下がっています。最近では日本酒が海外で人気のアルコールになりつつあると聞きますが、輸出量の割合は全体の3%以下で、厳しい経営環境下にあります。そうした中で、田中酒造では1988年から、工場と店舗を観光施設化し、「地酒」として小樽でのみ販売する、日本酒と観光業を融合させた「観光酒造り酒屋事業」を開始しました。当時はメーカーが直接売るとするのは業界慣行に反した試みでしたが、外国人観光客の増加とともに、販売実績を上げるようになりました。欧米からの観光客は、試飲するのみで購入しない傾向にありますが、東アジア諸国には「お土産文化」があり、お酒をお土産として購入する観光客が多くいます。現在、小樽には年間745万人の観光客が訪れ、そのうち15%にあたる約110万人は外国人と推計されています。こうした客層をターゲットにして販売する他、田中酒造では台湾など諸外国へ

の輸出も行っています。日本酒産業全体としては後継者問題があり、全体で約1,000社ある中で、後継者問題（及び国際化への対応）を解決して存続するのは300～500社程度ではないか、また、国内における過当競争が続くのか、例えばフランスの「ボジョレ・ヌーボー」のように、メーカーを問わず場所柄をブランド化して、「北海道のお酒」を販売することはできないか検討中とお話もありました。

様々な興味深いお話をお伺いすることができ、質疑応答においても台湾の大学院生から多くの質問と提案があり、充実した議論が展開されました。セミナーには約60名の参加があり、アンケートの集計から得られた反応はおおむね良好で、講演者の温かい人柄に対する高い評価と、講演内容に関する高い満足度を示すものでした。

（経済学研究科・経済学部）

## 経済学部で特別講演会「格差論の再燃－ピケティの衝撃とその評価－」を開催

経済学部では、7月17日（金）午後1時から、学術交流会館講堂において、京都女子大学現代社会学部客員教授（京都大学名誉教授）橋木俊詔先生による特別講演会「格差論の再燃－ピケティの衝撃とその評価－」を開催しました。

講演者である橋木教授は兵庫県のご出身ですが、小樽商科大学を卒業され、米国のジョーンズ・ホプキンス大学で博士号を取得された後、フランスの国立統計経済研究所、OECD、大阪大学、京都大学、同志社大学で、教育・研究に携わってこられ、今年4月からは京都女子大学の客員教授をなさっています。この間、2005年度には日本経済学会の会長も務められるなど、学会でも重要な役割を担われてきました。ご専門は労働経済学ですが、研究領域

は幅広く、今回のテーマの格差問題についても、1998年の『日本の経済格差：所得と資産から考える』、2006年の『格差社会：何が問題なのか』をはじめ多くの著書・論文を発表され、この分野での日本の議論をリードしてこられました。

講演では、まず日本の格差の現状など格差問題に関する基本的知識や分析枠組みの解説の後、機会の平等に注目することの重要性を説明され、それが日本で確保されなくなってきていることを、時系列比較や海外との比較によって示されました。また、最近大きな話題となったピケティの『21世紀の資本』については、ヨーロッパの膨大な歴史的データに基づいて格差拡大のメカニズムを明らかにした功績を評価する一方で、格差問題では、ピケティ

が注目した富裕層とそれ以外の格差より貧困層の問題が重要であることを強調されました。90分の講演後の30分間の質疑応答では、平等と効率性を両立させている北欧の例などについて、講演者と学生や研究者との間で熱心な議論が行われました。

平日の午後にも関わらず約250名の参加者があり、学生以外の方が半数を超えていたことに、この講演に関する一般の方々に関心の高さがうかがえました。講演に関するアンケートでは、複雑な問題を分かりやすく説明してもらえたと、高い評価を得ました。また質疑応答が充実していたことも評価されました。

（経済学研究科・経済学部）



講演会の様子



講演する橋木先生



活発な質疑応答

## 国際広報メディア・観光学院で英国シェフィールド大学との教育・研究交流「TLLPスタディ・ウィーク」を開催



参加者記念撮影



ワークショップの様子

国際広報メディア・観光学院では、6月16日（火）から19日（金）まで、イギリスのシェフィールド大学において、「タンデム・ランゲージ・ラーニング・プロジェクト（Tandem Language Learning Project: TLLP）・スタディ・ウィーク」を開催しました。

TLLPとは、国際広報メディア・観光学院、メディア・コミュニケーション研究院、シェフィールド大学（及びリーズ大学）のホワイト・ローズ東アジアセンター（WREAC）、フィンランド・ヘルシンキ大学の間で行われている研究教育の交流プログラムです。このプロジェクトの目的は、①学生・教員を含めた双方の研究交流及び研究ネットワークの構築、②研究遂行（データ収集、インタビュー、研究発表、研究討論など）のために必要となるアカデミックな言語スキルの獲得にあります。具体的な教育プログラムの内容は、両大学の大学院生同士がペアを組み、互いに相手の研究のサポートをす

るタンデム・ラーニング、またその進展をWEB上で支援する教員のアドバイス・システムが中心です。さらに、相互に相手の大学を訪問して研究発表や教育交流を行う「TLLPスタディ・ウィーク」を年に1～2回開催しています。

今年度のスタディ・ウィークは、シェフィールド大学で開催し、本学院から10名の大学院生と4名の教員が参加しました。4日間に及ぶセッションでは、学生による研究発表会、各大学の教員の講演会、研究倫理やアカデミック・スキルについての講演やワークショップ等、様々な研究・教育交流が行われました。TLLPの趣旨に基づき、本学院の学生は英語で、シェフィールド大学及びヘルシンキ大学の学生は日本語で研究発表を行いました。外国語での研究発表の経験がまだ多くない学生にとって、今回のスタディ・ウィークへの参加は大きな刺激となり、今後自分の研究を国際的な場で発信してい

くための第一歩となりました。また、4日間のセッションにおいて、各国の学生は、自分の発表だけではなく他の学生の発表をサポートしたり、互いにコメントし合ったりと、自立的な協働関係を築くことができました。このような研究ネットワークは、今後アカデミック・キャリアを築いていくうえで大きな助けとなるはずです。

来年度のスタディ・ウィークは、本学院で行う予定です。互いの大学を訪問し合うことによって、参加大学の研究・教育交流は年を追う毎により緊密なものとなっています。今後も、本学院は、このような国際交流プロジェクトを通して、国際的に広く開かれた研究・教育の場を創造していきたいと考えています。

（国際広報メディア・観光学院、  
メディア・コミュニケーション研究院）

## 教育学部でESDキャンパスアジア・プログラム2015に向けた事前学習を開催

教育学部は、「社会の持続可能な発展にとって教育のもつ役割は何か?」を主題とした双方向型短期留学支援事業であるESD (Education for Sustainable Development: 持続可能な発展のための教育) キャンパスアジア・プログラムを韓国・高麗大学校とソウル国立大学校, 中国・北京師範大学及びタイ・チュラロンコン大学と連携して, 2011年から毎年開催しています。

今年度からは, フィールドワーク(日高管内平取町におけるアイヌ民族文化の体験交流)において, 海外から来た学生に英語でアイヌ民族文化について説明できるよう「事前学習」を開催しました。7月14日(火), 16日

(木), 21日(火)の3日間, アイヌアートデザイナーの貝澤珠美氏をお迎えして, アイヌ模様についての講義, デザイン作成の指導をしていただきました。初日は貝澤氏の体験談とともにアイヌ模様について講義いただき, 2日目は講義の内容をもとにデザインを考案し, 3日目は考案したデザインを各々が持ち寄ったTシャツやカバーケースにペイントする実技を行いました。HUSTEP (Hokkaido University Short-Term Exchange Program: 北海道大学短期留学プログラム)の学生も参加し, 学生同士が英語で会話する場面も見られ, 本番に向けて実りのある事前学習となりました。

今回作成した作品をきっかけに, 8月の北大プログラムにおいて, アジアの4大学から参加する学生の仲間とともにアイヌ民族文化について, より深い理解に繋がるのが期待されます。

(教育学院・教育学研究院・教育学部)



貝澤氏の講義に聞き入る参加学生



デザインの様子



ペイントの様子



出来上がった作品

## 第1回理学系キャリアデザインセミナー2015を開催

7月1日(水), 理学部5号館大講堂において, 理学部・理学院キャリア委員会主催の理学系キャリアデザインセミナー2015を開催しました。

当日は理学系の学部生, 大学院生を中心とした約80名の参加があり, 本学の人材育成本部などの協力を得て大学院進学後のキャリア形成に関する講演が行われました。

(理学院・理学研究院・理学部)



会場の様子

## 理学部で「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」を開催

理学部生物科学科（高分子機能学）では平成19年度から毎年、体験入学「ひらめき☆ときめきサイエンス」を実施しています。平成27年度は、7月25日（土）に理学部5号館学生実験室において、「DNA鑑定をしてみよう！！ -DNAフィンガープリント法によるプラスミドDNAの分析・比較-」と題し、中学生、高校生を対象に実施しました。これは、環状プラスミドDNAをヒトDNAと見立てて、2種類の制限酵素によって処理して得られたDNA断片の電気泳動パターンを分析し、5人の容疑者の中から犯人を識別するというストーリーに沿い、DNA鑑定の模擬実験を行うものです。

本プログラムは、科学研究費補助金「真核生物リボソーム生合成における5S rRNP複合体の形成機構と機能の解明」（研究代表者：姚 閔）の成果をもとに、中学生、高校生が大学の先端技術に触れることにより、科学のおもしろさを感じてもらうことを目的としています。事前の告知期間が短かったにも関わらず、定員を上回る参加申し

込みがあり、当日は中学生16名、高校生5名の合計21名が参加しました。東京から駆けつけてくれた高校生もいました。

開講の挨拶、オリエンテーションの後、科学研究費について、日本の優れた研究や技術は科学研究費によって支えられていることを説明しました。次に、簡単なDNAフィンガープリント法の原理についての授業を行った後、各班に分かれて、大学院生、大学生と一緒にプラスミドDNAの調製、アガロース電気泳動のゲル作製を行いました。

昼食は5号館講義室にて、全員で仕出し弁当を食べながら、午後からの実験の話や大学生活の話などで盛り上がりました。昼食後は、研究施設見学ツアーを経て、実験室に戻り、DNAのアガロース電気泳動に入りました。午前中に調製したプラスミドDNAサンプルをアガロースゲルにアプライしようと、懸命にピペッターを操る中学生、高校生の姿が印象的でした。電気泳動後は、臭化エチジウム染色の後、いよいよ観察です。制限酵素によって切断

されたプラスミドDNAの切断断片を分析し、犯人識別を試みました。さらに、生体内でのDNA三次元原子構造の観察をコンピュータ上で行いました。

その後はクッキータイム（参加者との交流会）に入り、実験の感想や、来るべき大学生活についての抱負などを話し合いました。最後に、参加者に「未来博士号」の授与を行い、全員集合しての記念撮影の後、解散となりました。

準備は非常に大変でしたが、参加者が夢中になって実験している様子や、熱心に質問する姿を見て、こんなにも科学に興味を持ってくれたのなら頑張った甲斐があったと感じています。

実施にあたりご支援をいただいた実施分担者の先生方、事務担当者の方々、また事前準備や当日の実験補助に協力してくれた大学院生、大学生に厚くお礼申し上げます。

（生命科学院・先端生命科学研究院）



真剣にサンプル調製中



犯人を識別出来たかな？



クッキータイム

## 北大農場公開デー「搾乳からアイスクリームまで」

北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場では、7月30日（木）に小学生と保護者11組21名を対象に農場公開を開催しました。

生物生産研究農場は、毎年テーマを決めて農場の一般公開を企画し、農場内の施設紹介やそこで行われている教育研究活動について公開しています。今回は搾乳やアイスクリーム作りなどの体験を通して“どのようにして牛乳ができるか”“その牛乳からどのようにしてアイスクリームができるか”を学んでもらうことを目的としました。

参加者はまず乳牛が飼育されている牛舎にて、防疫・衛生のため、つなぎやオーバーシューズを身につけ、技術職員が毎日行っている搾乳作業を見学した後、担当職員から手搾りの方法を教わってから搾乳体験を行いました。参加者からは「牛の体温が温かった」「普段は体験できないことなので記念になった」等の感想をいただきました。

牛舎内では、4日前に産まれたばかりの仔牛の紹介や、乾草、サイレージ及び濃厚飼料といった牛の餌について説明が行われました。次に、放牧地では、牛の糞が虫によって細かく穴があげられている様子を見てもらい、微生物による分解がされやすくなって牧草の肥料となることなどの説明が行われました。

その後、アグリフードセンターに移動し、身支度や手洗い等を済ませてアイスクリーム作り体験に入りました。牛乳、生クリーム、脱脂粉乳、砂糖などの材料をよく混合してから、一定時間加熱殺菌してアイスクリームミック

スを作り、このミックスをフリーザーによってマイナス20℃以下で15～20分間冷却攪拌させて完成です。今回は時間の関係で、前もって作っておいたミックスを用いてフリージングの工程のみを行いました。参加者はフリージング後のアイスクリームを各々カップに入れ、さらに1時間ほど冷却させました。

アイスクリームの冷却の待ち時間に、乳製品の製造に使う機械の説明や、乳牛及びアイスクリームについての講義が行われました。北方生物圏フィールド科学センターの三谷朋弘助教による乳牛の講義では、草食動物が胃の中で草を分解し栄養源とする仕組みや、乳牛の体内で牛乳ができる仕組みなどの説明がありました。農学部酪農食品科学研究室の小林 謙助教によるアイスクリームの講義では、今回の体験で省略したミックスを作るまでの各工程の詳細や、乳固形分や乳脂肪分の割合によってアイスクリームが4種類に分類されることなどの説明が行われました。

講義の後、今回作ったアイスクリームの試食と北大農場で搾った牛乳の試飲を行いました。同時に乳固形分と乳脂肪分の割合が非常に高い濃厚なアイスクリームとの食べ比べや、市販の牛乳との飲み比べも行いました。どちらも味や食感の違いがはっきりとわかり、牛乳については「北大農場の牛乳が一番おいしい」との感想をいただきました。

半日という短い時間でしたが、今回の公開実習企画は参加者から好評を得ることができました。参加者は「原料

の生産（搾乳）から加工（アイスクリーム）まで」の一貫システムについて体験を通して学んだだけでなく、牛舎や放牧地の見学や講義によって、普段何気なく口にしている牛乳やアイスクリームなどの乳製品の知識がより一層深まったことと思います。

今後も公開事業を通して地域の人にとって食に関する知識を身につける食育の場を提供していきます。

（北方生物圏フィールド科学センター）



搾乳体験



放牧地での説明



アイスクリーム作り

## 工学系部局で新規安全主任者講習会，安全衛生教育講習会を実施

工学系部局では，平成26年5月から平成27年4月の間に新たに安全主任者の指名を受けた者を対象として，5月11日（月）・12日（火）の両日，新規安全主任者講習会を実施しました。

当日は，工学研究院等安全衛生管理室長である松藤敏彦教授が講師となり，本学全体や工学系部局の安全衛生管理に係る体制や業務，事故の予防と事後対応，化学物質の管理，職員・学生のメンタルヘルス等について講話が行われました。

また，工学系事務部職員及び事務部に派遣を受けている教室系技術職員を

対象に，5月18日（月）・19日（火）の両日，事務系職員安全衛生教育講習会を実施しました。

講習会当日は，工学研究院等安全衛生管理室長である松藤教授が講師となり，緊急時の対応，防火・防災，救急処置と応急処置，疲労と作業環境，交通事故，メンタルヘルスケアの他，ヒューマンエラーやメンタルヘルスについて講師の経験・知見に基づく具体的かつ広範囲な講話が行われました。さらに，内容の理解に時間がかかり正しく情報が伝達されない恐れのある事務部発信メールの事例とその改善例が

紹介されました。

これらの講習会は労働安全衛生法の規定に基づく「職長等への安全衛生教育」や「雇入れ時及び作業内容変更時の安全衛生教育」に相当しています。

このほかに各研究室等で安全主任者による安全衛生教育が行われており，工学系部局全体の安全衛生教育が終了しました。

（工学院・工学研究院・工学部，情報科学研究科，量子集積エレクトロニクス研究センター）



安全主任者に講話を行う松藤安全衛生管理室長



事務系職員に講話を行う松藤安全衛生管理室長



安全衛生教育を受ける事務系職員

## 工学系部局で「第1回こころのケアに関する講習会」を開催

工学系部局では，7月10日（金）午後5時30分から，工学系部局なんでも相談室の石原一人カウンセラーによる「第1回こころのケアに関する講習会」を開催しました。

講習会では，「ストレスとの向き合い方と不調を抱えた人への対応」をテーマに取り上げ，大学生特有の様々なストレスに対してどう向き合うか，また，ストレスによる身体状況，精神症状の変化に周囲がどう気づき，どう対応するか等について複数の事例の説明と，具体的な対応について講演が行われ，会場のアカデミックラウンジ3では，教職員及び学生37名の参加者が終始熱心に聴き入っていました。

終了後のアンケートには，「ストレ

ス症状のサインに身体症状があり，精神症状よりも先に出ることが多いことは，悩んでいる人を見つける上で，非常に参考になりました」「身体症状の気づきからアプローチするとハードルが低いという点は心に留めたい。認知行動療法については，自分のストレス対策としても活用してみたいと思う」「発達障害について詳しいお話を期待しています」等の多くの感想や要望が寄せられました。

工学系部局では，今後教職員向けに「第2回こころのケアに関する講習会」を開催する予定です。

（工学院・工学研究院・工学部，情報科学研究科，量子集積エレクトロニクス研究センター）



講演する石原カウンセラー



受講する教職員・学生

## 工学系部局で救急救命講習会を実施

工学系部局では、7月15日（水）に公益財団法人札幌市防災協会から講師を招き、救急救命講習会を実施しました。

工学系部局のエリア内では、「どこにいても5分以内にAEDによる処置が可能となる」目安を満たすよう、11箇所（自動体外式除細動器）を設置していますが、実際に使用できるか不安な人も多くいます。

この講習会は、学内外に関わらず誰

かが心肺停止に陥った場合、AEDを利用する等の方法により救急救命処置を行うことができるよう、心肺蘇生術を自身の技能として体得することを目的に実施したものです。

講習会では10名の参加者が2グループに分かれ、止血法、心肺蘇生法、AEDの使用法等を学び、終了後全員に「普通救命講習修了証」が授与されました。

参加者からは、「1人ずつの実技で

あったため、体で覚えることができ、大変良かった」「救命動作と人体のしくみの関係を教えていただいたので、よく理解できた」などの感想がありました。

工学系部局では、次年度以降も、救急救命講習会を開催していく予定です。

（工学院・工学研究院・工学部、情報科学研究科、量子集積エレクトロニクス研究センター）



人形を使用した講師の説明を真剣に聞く参加者



協力してAEDを使用した心肺蘇生術を行う参加者

## 第13回脳科学研究教育センターシンポジウム 「脳機能へのアプローチ：解剖・生理・薬理・分子生物から」を開催



講演者とセンター基幹教員等

7月21日（火）に、第13回脳科学研究教育センターシンポジウム「脳機能へのアプローチ：解剖・生理・薬理・分子生物から」（世話人代表：薬学研究院 南 雅文教授）を医学部学友会館フラテホールで開催しました。脳科学研究教育センターには医学、薬学、理学、工学、保健科学、文学、教育学など学内13部局の約30名が基幹教員として参加しており、脳科学研究の推進と、大学院講義、実習、合宿研修などを柱とした教育活動を行っています（<http://www.hokudai.ac.jp/recbs/>）。また、毎年、学内外の脳科学研究者が参加するシンポジウムを開催しています。今回のシンポジウムは、解剖学、生理学、分子生物学の立場から脳の機能や病態の研究を進める第一線の研究者3名を招聘し、薬理学を専門とするセンター基幹教員1名を加え、計4名の研究者がそれぞれの学問分野の特徴を生かした脳機能へのアプローチについて講演を行いました。

吉岡充弘センター長（医学研究科）による挨拶とセンター紹介の後、講演を開始しました。佐藤 真教授（大阪

大学大学院医学系研究科解剖学講座）による講演「脳発達とその破綻に学ぶ脳の機能基盤への新たなアプローチ」では、自閉症スペクトラムへの関連が示唆される分子を同定した研究成果に加え、神経細胞の形態に着目した解剖学ならではの視点からの脳機能へのアプローチが紹介されました。柚崎通介教授（慶應義塾大学医学部生理学）による講演「補体C1qファミリーによるシナプス制御機構－神経系と免疫・代謝系との接点？」では、自然免疫系で重要な役割を果たす補体ファミリーに属する分子が神経系においてシナプス形成・維持に重要な役割を果たしていることが示されるとともに、代謝系にも関与するという最近の見聞も紹介され、補体ファミリー分子が、免疫系・代謝系・神経系を結ぶ新たな生体調節システムである可能性が議論されました。永井義隆室長（国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター神経研究所）による講演「神経変性疾患に対する蛋白質のミスフォールディング・凝集を標的とした治療戦略」では、様々な神経変性疾患に蛋白質ミス

フォールディング・凝集が関与していることが示された後、分子遺伝学・分子生物学の手法によるショウジョウバエ、マウス、マーモセットなどの疾患動物モデルを駆使した病態解明と治療薬開発のための研究が紹介されました。南教授による講演「痛みによる負情動生成における分界条床核の役割」では、痛みが引き起こす嫌悪感や抑うつなどの負情動生成の神経機構に関する行動薬理的な研究の成果が報告され、慢性疼痛とうつ病に共通する神経基盤について議論がなされました。最後に、渡辺雅彦副センター長（医学研究科）の挨拶があり活況のうちに閉会となりました。

当日は学内の各部局や学外の研究者・学生等、58名の参加があり、活発な質疑応答がなされました。今回のシンポジウムが参加者の皆様の興味を満たすとともに、学内外の研究の新しい展開につながっていくことを願っています。

（脳科学研究教育センター）



講演する佐藤教授



講演する柚崎教授



講演する永井室長

## 北海道大学病院で夜間想定防火訓練を実施

北海道大学病院では、7月13日（月）午後2時から、夜間に火災が発生した場合を想定した防火訓練を実施しました。

今回の訓練は12階西側病棟の給湯室から出火したことを想定したもので、参加した医師、看護師らは真剣な面持ちで、通報連絡、初期消火及び模擬入

院患者の避難誘導の訓練に取り組みました。

訓練終了後、公益財団法人札幌市防災協会の係員から、「日頃から、実際に火災が起きた場合のシミュレーションをして、訓練の際にそれができるか確認することが重要」との講評があり

ました。

病院は常に患者さんの安全を守る立場にあることから、訓練の重要性を再確認する機会となりました。

（北海道大学病院）



搬送される模擬患者



消火器訓練の様子

## 北海道大学病院で「第52回ふれあいコンサート 七夕の夕べ」を実施

北海道大学病院では、7月30日（木）、病院アメニティホールにおいて「第52回ふれあいコンサート 七夕の夕べ」を開催しました。毎年、患者サービス推進委員会が中心となっている企画をしていますが、今年もYOSAKOIソーラン演舞、ボランティアの方々が加わった縁日コーナーと盛りだくさんの内容となりました。

コンサートの開演前から行われた縁日コーナーでは、入院中のお子さんが輪投げやヨーヨー釣りを楽しみ、バルーンアートを手にして、アメニティホールへ入って行きました。

「早く元気になりますように」などの患者さんの願いが込められた短冊が涼やかな雰囲気を醸し出す中、コンサートは松居喜郎副院長の挨拶で開幕しました。

YOSAKOIソーラン演舞では、まず北海道大学“緑”が、会場全体を広く駆け巡って迫力のある踊りを披露しました。続く平岸天神は、きらびやかな

衣装を身に纏い、今年度YOSAKOIソーラン大賞の風格漂う演舞を披露し、会場は大変な熱気に包まれました。

最後に、川畑いづみ看護部長の挨拶

で、北海道大学病院の夏の風物詩である「七夕の夕べ」は幕を閉じました。

（北海道大学病院）



ヨーヨー釣りを楽しむ子どもたち



笹飾りと短冊



北海道大学“緑”による演舞



平岸天神による演舞

## 附属図書館で「めざせ100万語！英語多読マラソン」スタートアップガイダンスを開催

6月30日（火）に附属図書館北図書館3階グローバルフロアにおいて、「『めざせ100万語！英語多読マラソン』スタートアップガイダンス」を開催しました。

「めざせ100万語！英語多読マラソン」とは、多読図書（図書館の英語多読教材コーナーの図書）を読み、その本の単語数を合算し100万語を目指すという、附属図書館が企画する学習支援事業の一つです。

「英語多読マラソン」をこれから始めようとする学生・教職員または、始めて間もない参加者のために、多読のメリットや多読の進め方・コツなどを紹介して、企画への参加を促すとともに、実際に多読図書を手にとって読んでみて、自分に合った多読図書の選び方や読み方を学ぼうという趣旨で、次の3部構成のガイダンスを開催しまし

た。

第1部では、図書館職員が「英語多読マラソン」の紹介や、Web上で語数を管理するシステムの利用方法について説明を行いました。

第2部では、本学で英語多読・多聴を授業で取り入れているメディア・コミュニケーション研究院の高見敏子准教授から「辞書はひかない」「わからないところは飛ばす」「自分に合わないと思ったらやめる」という多読の三原則を中心に、肩ひじ張らず楽しく行うのが良い、通学時間など空き時間も有効に使うのが良いなど、多読マラソンの進め方やコツについて講話がありました。

第3部では、多読図書読書体験会を行いました。会場となった新渡戸エリアには多読図書が配置されており、高見准教授がその場でセレクトした多読

図書を、それぞれ参加者が手にとって読みました。

参加者は19名（うち新渡戸カレッジ生3名）でした。

英語多読は、簡単な英語で書かれた図書を多く読むという学習法で、英語を勉強しなければと思いつつなかなか始められない方にも、手軽にまた気楽に始めることができます。附属図書館が企画するこの「英語多読マラソン」には、現在500名以上の学生や教職員が参加しています。詳しくは「英語多読マラソンホームページ」をご覧ください。

◆英語多読マラソンホームページ

[http://www.lib.hokudai.ac.jp/support/nitobe/tadoku\\_marathon/](http://www.lib.hokudai.ac.jp/support/nitobe/tadoku_marathon/)

または「多読マラソン」で検索。

（附属図書館）



説明する高見准教授



多読図書読書体験会の様子

# 法学研究科附属高等法政教育研究センター, 附属図書館共同ワークショップ「世界のルールの作り方・使い方」第1回「食の安全と国際経済」を開催

7月3日(金)午後2時45分から附属図書館本館大会議室において、法学研究科附属高等法政教育研究センターと附属図書館共同ワークショップ「世界のルールの作り方・使い方」第1回「食の安全と国際経済-成長ホルモン・遺伝子組み換え食品の輸出入をめぐる攻防」を開催しました。

本ワークショップは、グローバル・イシューについて国際法ガバナンスの視点からの研究レクチャーと、関連する資料・情報の検索セミナーを融合することで、参加者の問題解決に向けて一歩進んだ寄与を行うことを目的としています。

当日は、法学研究科附属高等法政教育研究センター長の尾崎一郎教授の挨拶に始まり、第1部のレクチャー基礎編では、法学研究科の見矢野マリ教授

が、国際法ガバナンスの基礎について身近なトピックスを交えながら講義をしました。続く応用編では、公共政策学連携研究部の伊藤一頼准教授が、EUとアメリカにおけるホルモン牛肉と遺伝子組み換え食品の2つの通商紛争事例について科学的な背景とともに解説をしました。

第2部では、附属図書館調査支援担当のスタッフが、第1部の応用編に関わるドキュメント検索のWebツールサイトからの紹介やデータベースの検索実習を交えての説明を行いました。なお、紹介したドキュメントの一部は、国連やEU関連資料であり、これは附属図書館が国連寄託図書館やEU情報センターに指定されていることに帰するものです。

閉会後も活発な質疑応答が行われ、

講師に質問する参加者の姿が見受けられました。参加者数は73名であり、法学研究科や農学研究院をはじめ多岐にわたる部局の教職員や学生、市民の参加がありました。

法学研究科附属高等法政教育研究センター及び附属図書館では、本ワークショップが研究分野を問わず、学問領域をつなぐ視座を提供するものと捉えており、今後もテーマを変えての開催を予定しています。

※本ワークショップの資料は、北海道大学学術成果コレクション (HUSCAP) にて公開しています。

<http://hdl.handle.net/2115/59545>

(法学研究科附属高等法政教育研究センター、附属図書館)



尾崎教授の挨拶



見矢野教授のレクチャー



伊藤准教授のレクチャー



附属図書館によるセミナー



会場の様子

## 新渡戸稲造関係掛け軸2幅を大学文書館で受贈



寄贈式（左から、五十嵐氏、新田大学文書館長、吉田名誉教授）

7月17日（金）、大学文書館では、吉田勉弘名誉教授にご仲介いただき、五十嵐晃彦氏（千葉県在住）から新渡戸稲造墨蹟と肖像画の掛け軸をご寄贈いただきました。寄贈式の当日は、吉田名誉教授ほか関係者のご出席のもと、五十嵐氏から新田孝彦大学文書館長へ掛け軸2幅が受け渡されました。

新渡戸稲造は1881（明治14）年に札幌農学校第2期生として卒業し、1887-1898年には札幌農学校教員を務めました。その後、台湾総督府技師や京都・東京両帝国大学教授を歴任、1918（大正7）年には東京女子大学初代学長に就任します。

受贈した墨蹟の掛け軸は、その1918年の6月9日に新渡戸自身が自作の短歌を揮毫したものです。墨蹟は、以下のように読みます。

見ん人の 為免ニハ阿らで 奥山耳  
おの加誠を 咲くさくら加奈  
稲造書

大正七年夏六月九日

才気に溢れていた新渡戸は、その才

を様々な方面から求められ、常に注目を浴びる立場で活動を続けていました。自作の短歌は、そのような境遇の自身と引き比べ、奥山で人知れず咲く桜の花への憧憬を歌ったものと解釈できます。

一方、肖像画の掛け軸には、「文岳謹写」と署名があります。「文岳」という雅号を持つ作者が、晩年に近い時期の新渡戸の写真を模写した肖像画であると推測できます。

両掛け軸は、元々は伊藤つね氏（日本女子大学校国文学部2回生、1905年卒業、旧姓山内）の旧蔵物でした。墨蹟は伊藤氏が新渡戸から直接書いてもらい、肖像画は後年購入したものです。その後、寄贈者の五十嵐氏のご尊父である五十嵐彦仁氏が、ご縁戚にあたる伊藤氏から譲り受け、所蔵されてきました。

五十嵐彦仁氏（1900-1986年）は札幌に生まれ、1921（大正10）年に北海道帝国大学予科入学、1927（昭和2）年に北海道帝国大学農学部農芸化学科

を卒業しました。北海道庁技手となり北海道水産試験場に勤務、北海道水産試験場函館支場長等を歴任しました。1947（昭和22）年には北海道大学で農学博士号を取得し、1952（昭和27）年にスルメイカ大量処理の研究と、常水及び廃水の研究で函館市文化賞を受賞しました。1967（昭和42）年には函館大学教授に就任し、主な著書に『污水化学総論』上・下巻（内田老鶴圃新社、1971-1972年）があります。

ご尊父である彦仁氏の遺品として掛け軸を所蔵されて来られた晃彦氏は、新渡戸とご尊父に縁のある本学への寄贈をご高慮くださり、この度の資料寄贈式の実施に至りました。

今後、大学文書館では受贈した掛け軸を、歴史的資料として大切に保管し、展示等において多くの方にご紹介して参ります。

（大学文書館）

# レクリエーション

## 平成27年度学内バレーボール大会の開催

職員レクリエーション行事の一環として例年実施しているバレーボール大会を、7月13日（月）から7月28日（火）までの間、第2体育館で開催しました。

今年度も多くの職員の参加があり、活気溢れる大会となりました。

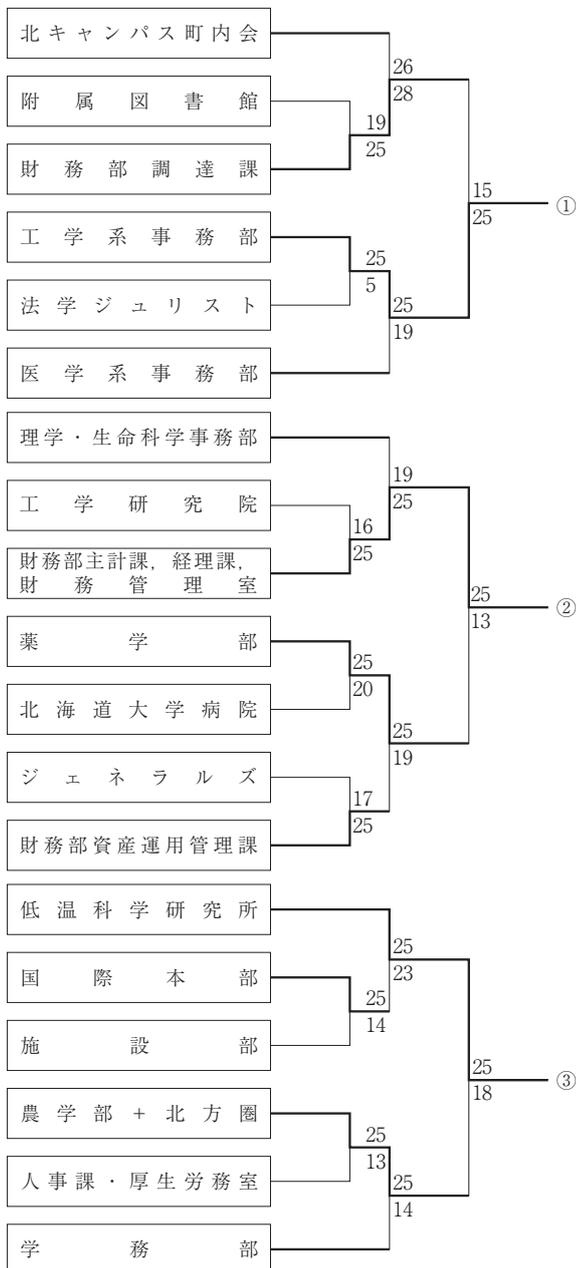
なお、結果は以下のとおりです。

（職員排球部）

### 大会結果

- 優勝 財務部主計課，経理課，財務管理室
- 準優勝 工学系事務部
- 第3位 低温科学研究所

### 平成27年度学内バレーボール大会組合せ表



優勝：財務部主計課，経理課，財務管理室



準優勝：工学系事務部



第3位：低温科学研究所

### 決勝リーグ戦

	① 工学系 事務部	② 財務部主計課 経理課 財務管理室	③ 低温科学 研究所	順位
① 工学系事務部	○	● 18-25	○ 25-18	2
② 財務部主計課， 経理課， 財務管理室	○ 25-18	○	○ 25-20	1
③ 低温科学研究所	● 18-25	● 20-25	○	3

## 卓球部OB会が創立50周年記念卓球交流会及び祝賀懇親会を開催



卓球交流会集合写真

本学卓球部OB会は、昭和40年4月、本学の体育会卓球部の活動を支援するとともに、会員相互の親睦を図るために組織されました。この度、創立50周年を記念して、6月27日（土）、第一体育館において現役部員との卓球交流会を開催し、その後、場所を北部食堂に移して、祝賀懇親会を執り行いました。当日は、全国各地から100名以上のOBが参加し、12チームに分かれて現役部員との試合で汗を流すとともに、旧交を温めました。

祝賀懇親会は、OB会長の河村耕作氏（昭和38年入学、法学部卒）の挨拶に始まり、次いで三上 隆理事・副学長の来賓祝辞、元OB会長の柿本伸之氏（昭和27年入学、経済学部卒）の祝辞が行われ、前OB会長の吉備津政博氏（昭和30年入学、文学部卒）の乾杯により、開宴しました。そして、当日の卓球交流会の結果発表と表彰式、また各期を代表してのスピーチなどが行われ、和気藹々とした雰囲気のもと進行し、OB会東京支部長の高坂八郎氏（昭和36年入学、工学部卒）の中締め挨拶の後、全員で「都ぞ弥生」を歌って閉会しました。

今後、本学卓球部のますますの躍進とOB会活動の一層の充実が期待されます。

（卓球部OB会）



卓球交流会の様子



河村OB会長の挨拶



三上理事・副学長の来賓祝辞

## ■ 諸会議の開催状況

### 役員会（平成27年7月10日）

- 議案・第3期中期目標・中期計画に係る戦略性が高く意欲的な目標・計画等について
- ・平成28年度概算要求提出について
- 協議事項・教育研究組織等の改組について
- ・ディステイングイッシュトプロフェッサーの称号付与の対象について
  - ・国立研究開発法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）との連携協力協定について
  - ・諸規則の一部改正について
- 報告事項・平成27年度北海道大学進学相談会について
- ・全学運用教員の実施状況報告について

### 教育研究評議会（平成27年7月15日）

- 議題・経営協議会の学外委員について
- ・教育研究組織等の改組について
  - ・ディステイングイッシュトプロフェッサーの称号付与の対象について
  - ・国立研究開発法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）との連携協力協定について
  - ・諸規則の一部改正について
- 報告事項・理事及び副学長の職務分担について
- ・全学運用教員の実施状況報告について
  - ・大学間交流協定の新規締結について
  - ・利益相反セミナーの開催について
  - ・平成26年度決算について

### 役員会（平成27年7月31日）

- 議案・教育研究組織等の改組について
- ・ディステイングイッシュトプロフェッサーの称号付与の対象について
  - ・国立研究開発法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）との連携協力協定について
  - ・諸規則の一部改正について
  - ・北京オフィスについて
- 協議事項・全学運用教員の措置について
- 報告事項・超過勤務実績について
- ・平成28年度概算要求の提出について
  - ・平成27年度運営費交付金の追加配分について
  - ・平成27年度総長室事業推進経費第二次決定事業について

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しております。

## ■ 学内規程

### 国立大学法人北海道大学における教員の任期に関する規程の一部を改正する規程

（平成27年8月1日海大達第221号）

国際本部の本部長付として採用する教授，准教授及び講師並びに遺伝子病制御研究所の所長付として採用する准教授について，大学の教員等の任期に関する法律第4条第1項第1号の規定に基づき任期を定めることに伴い，所要の改正を行ったものです。

### 北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター規程の一部を改正する規程

（平成27年8月1日海大達第222号）

人獣共通感染症リサーチセンターにザンビア拠点を設置することに伴い，所要の改正を行ったものです。

## ■表敬訪問

### 海外

年月日	来訪者	来訪目的
27.7.16	蘭州大学（中国）Shengyi Du Cuiying Honors College 准教授	両大学の交流に関する懇談
27.7.31	ヤンゴン大学（ミャンマー）Thida Lay Thwe 教授	両大学の交流に関する懇談



蘭州大学（中国）  
Shengyi Du Cuiying Honors College 准教授  
（前列右から2人目）



ヤンゴン大学（ミャンマー）  
Thida Lay Thwe 教授（右から2人目）

（国際本部国際連携課）

## ■人事

平成27年7月4日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【技術職員等】 (辞職)	村 田 知 弥	北海道大学病院看護部看護師

平成27年7月16日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【経営協議会委員】 (期間：平成29年7月15日まで)	古 川 周 三	北海道新聞社論説主幹
【助教】 総合博物館助教	山 下 俊 介	採用

平成27年7月29日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 (辞職)	原 田 賢一郎	大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター教授

平成27年7月31日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【助教】 (辞職)	立 松 恵	大学院医学研究科助教
【技術職員等】 (辞職)	奥 村 彩 加 茂 真梨子 前 田 珠 希	北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師 北海道大学病院看護部看護師
【嘱託職員】 (辞職)	奥 原 浩 之	北海道大学病院診療支援部

平成27年8月1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター教授	笠 松 拓 史	総務省大臣官房付
【准教授】 北海道大学病院准教授	SHANE PETER YAMAMURA	採用
【講師】 大学院薬学研究院講師 遺伝子病制御研究所講師	天 野 大 樹 上 村 大 輔	大学院薬学研究院助教 遺伝子病制御研究所助教
【助教】 大学院医学研究科助教 大学院医学研究科助教 大学院獣医学研究科助教 北海道大学病院助教	倉 島 庸 藤 岡 容一朗 山 崎 淳 平 三 田 村 卓	北海道大学病院助教 採用 採用 採用

平成27年8月4日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
<b>【役員】</b> 理事 (事務局長) (期間：平成29年3月31日まで)	徳久 治彦	文部科学省大臣官房総括審議官
(転出) 文部科学省大臣官房付	村田 直樹	理事 (事務局長)

新任理事等紹介

平成27年8月4日付

理事・事務局長に



とくひさ はるひこ 徳久 治彦 氏

平成27年8月3日限りで村田直樹理事・事務局長が転出され、その後任として徳久治彦氏が発令されました。任期は、平成29年3月31日までです。

略 歴

生年月日 昭和33年3月29日  
 昭和56年3月 東京大学法学部卒業  
 昭和56年4月 文部省大臣官房人事課  
 昭和56年8月 文部省初等中等教育局中学校教育課  
 昭和58年4月 文部省管理局企画調整課  
 昭和59年7月 文部省高等教育局私学部私学行政課  
 昭和60年4月 文部省大臣官房総務課  
 平成元年4月 広島県教育委員会事務局管理部総務課長  
 平成3年7月 文部省初等中等教育局高等学校課課長補佐  
 平成5年11月 文部省大臣官房総務課審議班主査  
 平成8年2月 文部省大臣官房総務課副長  
 平成8年7月 文部省初等中等教育局小学校課教育課程企画室長  
 平成10年8月 文部省初等中等教育局企画官  
 平成11年7月 文部省初等中等教育局中学校課長  
 平成13年1月 文部科学省初等中等教育局児童生徒課長  
 平成14年4月 文部科学省高等教育局専門教育課長  
 平成15年7月 内閣官房内閣参事官 (内閣官房副長官補付)  
 平成18年7月 文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課長  
 平成19年7月 文部科学省大臣官房総務課長  
 平成20年7月 文部科学省大臣官房審議官 (初等中等教育局担当) (兼)国立教育政策研究所次長  
 平成24年1月 文部科学省大臣官房政策評価審議官  
 平成25年4月 独立行政法人日本学生支援機構理事長代理  
 平成26年4月 文部科学省大臣官房総括審議官  
 平成27年8月 同上退職 (役員出向)

新任教授紹介

平成27年8月1日付

公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター教授に



かさまつ ひろし 笠松 拓史 氏

都市政策研究部門

最終学歴

東京大学経済学部卒業 (平成4年3月)

専門分野

地方自治, 地方行財政

## 編集メモ

---

●「ホームカミングデー2015」まで約1ヶ月となりました。

特設サイトではガイドブックを掲載し、全学行事や各部局・同窓会の主催行事等をお知らせしていますので、ぜひご覧ください。また、サイトからは参加申込も受け付けています。

同窓生・元教職員の皆様をはじめ、教職員の皆様のご参加をお待ちしています。この機会に交流を深め、北大の「今」を体感していただければと思います。

◆<http://www.hokudai.ac.jp/home2015/index.html>



2014.8.14 室蘭本線 礼文～大岸（豊浦町）

## 北の鉄道風景 29 晩夏の海辺にて

北海道の本格的な夏は長続きせず、お盆を迎える頃から暑さが和らぎはじめて、初秋の雰囲気を感じられるようになる。この写真は昨年（2014年）のお盆、早朝に撮影したものであるが、青空には高積雲が広がり、半袖の上着だけでは寒いほどの冷え込みで、初秋と言っても良いような状況であった。海辺

のキャンプ場は、北国の短い夏を楽しもうとする人々で賑わっている。その側を、最後の夏を迎えた寝台特急列車「トワイライトエクスプレス」が駆け抜けて行く。

情報科学研究科 准教授 山本 学

北大時報 ⑧ No.737 平成27年 8月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。http://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html